

エズラ

助けるの意味

元々の言葉は「◀(V) 5826. azar 81 回▶助ける」

ちらっとみた印象では(改 2)と(改 4)の違いがいくつもあるようだが、それらの多くは(改 3)の段階で変えられていたようだ。

1:1 ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた【主】のことばが成就するために、【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。

1:5 そこで、ユダとベニヤミンの一族のかしらたち、祭司たち、レビ人たちは立ち上がった。エルサレムにある【主】の宮を建てるために上って行くように、神が彼ら全員の霊を奮い立たせたのである。(改 4)

1:5 そこで、ユダとベニヤミンの一族のかしらたち、祭司たち、レビ人たち、すなわち、神にその霊を奮い立たされた者はみな、エルサレムにある【主】の宮を建てるために上って行こうと立ち上がった。(改 2)

これに関しては(改 2)のほうが正しそう。

@ 民のふるい分け、主に熱心な者だけが帰る、(1000 Km近い道のり)

1:8 ペルシアの王キュロスは財務官ミテレダテに命じてこれを取り出し、その数を確かめさせ、ユダの首長シェシュバツアルに渡した。

@シェシュバツアル=ゼルバベルのこと

エズ 2:20 ギバル族、九十五人。

ギバル族=ギブオン族（ネヘ 7:25）

ネヘ 7:25 ギブオン族、九十五人。

2:64 全会衆の合計は四万二千三百六十人であった。

2:65 このほかに、彼らの男女の奴隷が七千三百三十七人いた。また、彼らには男女の歌い手が二百人いた。

@ゼルバベルが導いた総数。

3:3 彼らは、周りの国々の民を恐れていたもので、祭壇を所定の場所に設けた。彼らはその上で【主】に全焼のささげ物、すなわち、朝ごと夕ごとの全焼のささげ物を献げた。

(改 2) 全焼の生贄を捧げる為に、こぞってイスラエルの神の祭壇を築いた。」

@神殿よりもまず祭壇を築いた

ただし、「イスラエルの神」という言葉は原文にはない。

3:4 彼らは、書かれているとおりに仮庵の祭りを祝い、毎日の分として定められた数にしたがって、日々の全焼のささげ物を献げた。

エズ 3:10 建築する者たちが【主】の神殿の礎を据えたとき、イスラエルの王ダビデの規定によって【主】を賛美するために、祭服を着た祭司たちはラッパを持ち、アサフの子らのレビ人たちはシンバルを持って出て来た。

賛美=ハラル◀ 1984. halal (هالال)165回▶(源)輝く（訳出では「賛美、誇る、気が狂う」）

3:11 そして彼らは【主】を賛美し、感謝しながら「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに」と歌い交わした。こうして、【主】の宮の礎が据えられたので、民はみな【主】を賛美して大声で叫んだ。感謝し=ホウドット=ヤダ◀ 3034. yadah(נָתַר) 114 回▶ 感謝する 67 回、賛美する 19 回、告白 16 回

(NAS) (KJV): give thanks

賛美=ハラル◀ 1984. halal (הלל)165 回▶(源)輝く (訳出では「賛美、誇る、気が狂う」)

歌い交わした=◀ 6030. (ענה)anah (329 回)▶ to answer, respond (google)彼は答えた

主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでも=詩篇 1 3 6 編

3:12 しかし、祭司、レビ人、一族のかしらたちのうち、以前の宮を見たことのある多くの老人たちは、目の前でこの宮の基が据えられたとき、大声をあげて泣いた。一方、ほかの多くの人々は喜びにあふれて声を張り上げた。

「大声を上げて泣いた=、幼少の頃に見たものとは比べ物にならないので

ハガイ 2:3 『あなたがたの中で、かつての栄光に輝くこの宮を見たことがある、生き残りの者はだれか。あなたがたは今、これをどう見ているのか。あなたがたの目には、まるで無いに等しいのではないか。』

@リバイバルの只中でいろいろな思いが交錯する

3:13 そのため、喜びの叫び声と民の泣き声をだれも区別できなかった。民が大声をあげて叫んだので、その声は遠いところまで聞こえた。

4 : 1 「敵達」

4 : 2—5

@にせ礼拝者「一以来、いけにえを捧げてきました」

第2列王記 17:24 アッシリアの王は、バビロン、クテ、アワ、ハマテ、そしてセファルワイムから人々を連れて来て、イスラエル人の代わりにサマリアの町々に住まわせた。こうして、彼らはサマリアを占領して、その町々に住んだ。

第2列王記 17:33 彼らは【主】を礼拝しながら、同時に、自分たちが移される前にいた国々の慣わしによって、自分たちの神々にも仕えていた。

(4 : 24 《最後の節》の間に12—15年の空白がある)

5:1 さて、預言者 **ハガイ** とイドの子 **ゼカリヤ** という二人の預言者は、ユダとエルサレムにいるユダヤ人に対して、自分たちの上におられるイスラエルの神の御名によって **預言した**。

5:5 しかし、ユダヤ人の長老たちの上には彼らの 神の目が注がれていたので、このことがダレイオスに報告されて、さらにこのことについての返事の手紙が来るまで、彼らの工事を中止させることができなかった。

神の目が注がれていたので=われわれは何をするにも神の恵みが必要

6:8 私は、さらに、この神の宮を建てるために、あなたがたがこれらユダヤ人の長老たちにどうすべきか、命令を下す。王の収益としてのユーフラテス川西

方の地の貢ぎ物の中から、その費用を間違いなくそれらの者たちに支払って、滞らぬようにせよ。

@まちがいなく = ◀ 629. osparna ▶ 熱心に

@滞らぬように = ◀ 989. betel ▶ 止まる、遅れる、尽きる

敵の費用で宮が立てられる事になった

6 : 1 5 完成

7:1 これらの出来事後、ペルシアの王アルタクセルクセスの治世に、セラヤの子エズラという人がいた。セラヤはアザルヤの子、順次、ヒルキヤの子、

@これらの出来事後 = B C 4 5 8

最初の帰還から 6 0 年後 あるいは 8 0 年後 (J J)

7:10 エズラは、【主】の律法を調べ、これを実行し、イスラエルで掟と定めを教えようと心を定めていた。

7:11 アルタクセルクセス王が、祭司であり学者であったエズラに与えた手紙の写しは次のとおりである。このエズラは、【主】の命令のことばと、イスラエルに関する主の掟に精通していた。

7:12 「王の王アルタクセルクセス。天の神の律法の学者である祭司エズラへ。中略。さて、

7:13 私は命令を下す。私の国にいるイスラエルの民、その祭司、レビ人のうち、だれでも自分から進んでエルサレムに上って行きたい者は、あなたと一緒に行ってよい。

@ペルシャの王がエズラに与えた権限

7:18 また、残りの銀と金の使い方については、あなたとあなたの兄弟たちが良いと思うことは何でも、あなたがたの神のみむねにしたがって行方がよい。

7:23 天の神の宮のために、天の神によって命じられていることは何でも、熱心に行え。御怒りが王とその子たちの国に下るといけないから。

7:26 あなたの**神の律法**と**王の律法**を守らない者には、だれに対しても、死刑でも、追放でも、財産の没収でも、投獄でも、その判決を厳格に執行せよ。」

@神の律法と王の律法＝ 権威者を尊ぶ

エズ 7:27 私たちの父祖の神、【主】が**ほめたたえ**られますように。主はエルサレムにある【主】の宮に栄光を与えるために、このようなことを王の心に起こさせ、

ほめたたえ＝バラク・1288。(𐤁𐤏𐤁)barak 330回▶ 祝福する 316回(英)の内 74回ほめる(改4)。

(NAS)(KJV)(INT)Blessed (改4) ほめたたえ

8:21 私はそこ、アハワ川のほとりで断食を布告した。それは、私たちの神の前でへりくだり、私たちのために、私たちの子どもたちと、私たちのすべての持ち物のために、道中の無事を神に願い求めるためであった。

8:22 それは私が、道中の敵から私たちを助ける部隊と騎兵たちを、王に求めるのを恥じたからであった。実際、私たちは王に、「私たちの神の御手は、神を尋ね求めるすべての者の上に幸いを下し、その力と怒りは、神を捨てるすべての者の上に下る」と言っていたのである。

8:23 そのため私たちはこのことのために断食して、自分たちの神に願い求めた。すると、神は私たちの願いを聞き入れてくださった。

@主は信仰に基づいた私たちの信念を尊ばれる。

9:5 夕方のささげ物の時刻になって、打ちのめされていた私は立ち上がり、衣と上着を引き裂いたまま、ひざまずき、自分の神、【主】に向かって手を伸べ広げて、

ひざまずき=カラ◀ 3766.(y r c) kara 36 回▶ ひざまづく (現へ) ひざまづく

(NAS)(KJV)(INT) *fell ..on my knees (改 4)ひざまずき

9:8 しかし今、しばらくの間、私たちの神、【主】はそのあわれみによって、私たちに逃れの者を残し、私たちのためにご自分の聖なる所に一本の杭を与えてくださいました。これは、私たちの神が私たちの目を明るくし、奴隷の身の私たちを少しでも生き延びさせてくださるためでした。

この調査はあまり意味がないかもしれない。

@しばらくの間=小さな+◀ 7281. rega ▶ a moment = un tiempo de oportunidad

サウルがサムエルと出会った時はレガであった。

Rega=たちどころに、

民数記 16:21 「あなたがたはこの会衆から離れよ。わたしは彼らをたちどころに滅ぼし尽くす。」

Rega=時

出 33:5 うなじを固くする民だ。一時でも、あなたがたのただ中であって上って行こうものなら、

一時=rega + ehad

エズ 10:1 エズラが神の宮の前でひれ伏して、涙ながらに折り告白しているとき、男や女や子どもの大会衆がイスラエルのうちから彼のところに集まって

来た。民は涙を流して激しく泣いた。

祈り = ◀ 6419. palal (פָּלַל) 84 回 ▶ (V) 干渉する、とりなしする、祈る

告白 = ワドット = ヤダ ◀ 3034. yadah (יָדָה) 114 回 ▶ 感謝する 67 回、賛美する 19 回、告白 16 回

(NAS) (KJV) confess

10:3 今、私たちは自分たちの神と契約を結び、主の勧告と、私たちの神の命令を恐れかしこむ人々の勧告にしたがって、これらの妻たちと、その子どもたちをみな追い出しましょう。律法にしたがってこれを行いましょう。

10:11 だから今、あなたがたの父祖の神、【主】に告白して、そのみむねにかなったことをしなさい。この地の民、異国人の女たちから離れなさい。」

告白して = トダ(名詞) ◀ 8426. todah (תּוֹדָה) 32 回 ▶ 意味は「感謝」「賛美」「告白(2回)」

新改訳で告白と訳されているのは、エズラ 10:11 とヨシュア 7:19(アカンの罪)

エズラ 10 章では動詞のヤダ(יָדָה)を用いて (114 回中告白という訳は 16 回)が使われている。

トダは名詞なので、動詞で「する、あたる、置く」を意味する ◀ 5414. nathan 2100 回 ▶ と組み合わせて「告白する」という動詞にしている。

10:44 これらの者はみな、異国人の女を妻にした者であった。彼らの妻たちの中には、すでに子を産んだ者もいた。